

# 小豆島中央病院だより



- 当院部署紹介
- 令和4年8月7日ふれあい看護体験
- 第60回香川県国保地域医療学会で最優秀賞を受賞しました
- 病院だよりの表紙写真を募集しています！
- 糖尿病たより
- 新型コロナウイルス感染症について





## 耳鼻咽喉科

耳鼻咽喉科の外来診療は、月・火・木曜日は午前・午後とも常勤医1名、水・金曜日は午前・午後とも非常勤医1名で外来診療を行っております。入院、外来ともに中耳炎や突発性難聴、メニエール病などの耳疾患、アレルギー性鼻炎（花粉症）や副鼻腔炎などの鼻疾患、扁桃炎や喉頭炎などの咽喉頭疾患、その他、顔面神経麻痺などの様々な疾患に対応していますが、頭頸部癌など治療困難な疾患については香川大学耳鼻咽喉科の協力を得ています。

小豆島では高齢化率が高く、入院中の方で飲み込みがうまくできない、嚥下障害の方が多くいらっしゃいます。当院ではチームを作り活動しており定期的に嚥下機能検査も多く行っております。そのほか、月曜日午後は補聴器外来を行っており認定補聴器技能者と連携し新規の補聴器作成や調整を行ったりしています。外来診療はなるべく早くお呼びできるように努めてまいります。緊急の対応などでお待たせすることがあるかと思いますが、ご理解のほどよろしくお願いいたします。



## 小児科

小児科では、主に生まれたばかりの赤ちゃんから中学校卒業までを対象として各外科部門や他職種と協力しながら総合診療を行っております。日々の診療は、感染症からアレルギー疾患、神経疾患、循環器疾患などをはじめ多岐にわたります。

小児は成長・発達し、思春期を迎え、体が大きく変化していきます。その中で、発育や心理面などに気がかりのあるお子さんや、そのご家族に対して支援をしています。

当院は小豆島の約2,500人の小児の健康管理を行う小児科専門医が常勤する島内唯一の医療機関です。島内の小児の健康管理の要として責任を持ち、島内の保育施設から学校までの全施設、および土庄町・小豆島町と連携し、健診・予防接種事業などで島の小児の健康と安全に貢献しています。このような医療施設は全国的に見ても極めて稀であり、当院の誇るものです。

お子さんの調子が悪くても仕事が休めないときは、病児保育室「オリーブキッズ」をご利用ください。休日夜間も緊急を要する場合や新生児のように専門性の必要な場合には小児科医が対応できる体制をとっています。

小豆島で安心して子どもを育てられるお手伝いをしていきます。



## 令和4年8月7日 ふれあい看護体験

3年ぶりにふれあい看護体験を開催しました。先輩看護師の指導のもと採血体験、手浴、血圧測定などを行いました。参加した学生からは、「採血体験ではなかなか血管に針が刺さらず大変でしたが、血が採れた時はうれしかったです。」「学校では知識だけで実技をする機会が無いので今日は本物の器具を使ったり、専門としている人から話を聞くことができ、とても勉強になりました。」「看護師の夢に向かってますます頑張ろうと思いました。」などたくさんの感想を戴きました。この体験を通して、看護師の道へと進むきっかけや目標を持つ機会になれば嬉しいです。



## 第60回香川県国保地域医療学会で最優秀賞を受賞しました

当院の看護師 唐橋真理子が第60回香川県国保地域医療学会の研究発表で「タオル品質管理」について発表し、最優秀賞を受賞しました。タオルに発生するセレウス菌の繁殖を防止する為の取組が評価されました。当院からは、昨年度の優秀賞に続いて2年連続での受賞となりました。

この経験を活かし、よりよい医療サービスを提供できるよう、日々業務の改善を続けてまいります。



## 病院だよりの表紙写真を募集しています！

 あなたの写真が令和5年10月号の表紙に 

小豆島中央病院では、島内の秋を感じる写真を募集しています。地域の皆様の写真で、病院だよりの表紙を飾りませんか？

### 【募集テーマ】

島内で撮影した秋をイメージする  
自然、風景、または行事

### 【写真形式】

タテ・ヨコは自由、カラー写真のみ  
プリント写真  
(はがきサイズ以上 102mm×152mm)

### 【採用方法】

小豆島中央病院 広報委員会で選考後、  
採用された方にはご連絡を申し上げます。

### 【問い合わせ先】

小豆島中央病院  
人事・秘書課 0879-75-1214

### 【募集締切】

2022年12月27日（火）

### 【応募方法】

撮影者氏名、住所、電話番号を明記の上、窓口へ直接提出または郵送でご提出ください。

〒761-4301

香川県小豆郡小豆島町池田2060-1  
小豆島中央病院 人事・秘書課 行

### 【注意事項】

- 被写体に人物が入る場合は、必ず公表の承諾を得てください。
- ※イベント等での個人特定の低い写真は、この限りではありません。
- 写真のデータなどは返却いたしません。
- 応募にかかる費用は、応募者負担とさせていただきます。





# 糖尿病たより



2016年から始まった糖尿病教室。2020年からは、蔓延するコロナの影響により休止したままとなっています。糖尿病は、感染症などに罹患すると重症化しやすいため、より慎重に対応していかなければなりません。

そこで、今後教室が再開できるまでの間、健康的な生活を送るためのヒントになるよう小豆島中央病院だよりを通して糖尿病に関する情報をお知らせしていきます。

## ～今までの教室の様子～



## 新型コロナウイルス感染症について

～感染対策室室長 唐橋 真理子～

島内における新型コロナウイルス感染症による陽性者は、今までにないほど増加しています。感染経路としては、会食や帰省による持ち込みで、家庭内感染し高齢者に波及しています。事前に抗原検査やPCR検査を受けてもウイルス量が少ないと陽性にはならないため、移動直前と移動後2日は体調管理、接触を少なくすることが必要です。予防策としては、接触とエアロゾル、飛沫感染を防ぐことです。今後も手洗いや手指衛生、室内でのマスクの着用を徹底し、島外へ出かけた際には、「もしかして…感染したかも。」と思って健康観察と人との距離を保ち接するよう心がけてください。

## 新型コロナワクチンについて



国際医療福祉大 松本哲哉教授によると「3回目のワクチン接種後、5か月ほどたつと効果が下がるため4回目の接種が必要になる。これまでのワクチン接種は、発症を予防し感染そのものを抑えることが大事だったが、今後は重症化予防が大事になるため、高齢者や基礎疾患を持つ人など重症化リスクの高い人に優先して接種していくことが重要だ。」と述べています。4回目の接種によって、無症状を含めた感染を防ぐ効果は、3回接種の人と比較した場合、ファイザーのワクチンで30%、モデルナのワクチンで11%、また、発症を防ぐ効果は、ファイザーのワクチンで43%、モデルナのワクチンで31%と推計されるとしているため、リスクのある方はワクチン接種をお勧めいたします。